

寄り一席の説教を爲し芳賀郡古久保氏に着せしは午后四時頃なりし夜に入つて講演盛會此地に分局設置の議あり野州は全縣を通じて本教の勢力活氣ありと認む爾后布教に盡力し獎勵するの結果は必ず大なるへし廿四日一ト先づ歸京し廿七日發して埼玉に向ふ (以下次號)

● 管長靜岡縣下巡回景況

隨行員 田中塵外報

春風駘蕩櫻花爛熳の好氣節に際し我教管長は關東巡教を了へ都の春を跡になし今や駿遠の野を跋渉す先づ駿東有渡庵原の二郡に向ひ到る處歡呼喝采の中に米國土産を分つ教長鈴木新五郎氏廣瀬令行氏横澤六太郎氏等熱心盡力せらる江尻町に於て大演説會を開きしに風雨を衝て來會せしもの數百夫より有名なる三保の松原鎮守御穂神社の祭典に會し祠官長澤氏の招聘を受けしも風雨の爲管長の臨場を得ず余と廣瀬氏と行て演説す翌十日靜岡市法月氏に一泊開講十一日連日の陰雨悉く晴れ來つて暖又た加ける西部藤枝に向へは停車場には櫻井教長を始め神道實行教の旗幟を押立て數十名の出迎へあり腕車を聯れて藤枝分局に着す休憩須臾にして社員は既に場中に充ちさしに廣き教會所立錫の餘地なし正面に演壇を設け管長直垂を着し喝采聲裡に米國宗教會の景況を報し我々神道實行教を世界に知らしめ日本國威を輝し至尊の宸襟を安し奉りしも單に天神の加護と諸君の精神に依る演へ了りし時は滿堂歡極つて涙を拂ふに及ぶ畢て懇親會を開き膳部に對ひしもの無慮百五十餘餘醺なるに及び廣瀬氏立て今日の盛會を嘉ひ合せて管長に代つて諸君の厚志を謝す述へたれより教長の紹介を以て余は場の中央に起ちて一場の演説をなし神道擴張策の一助として機關雜誌の必要を感じ微力なりと雖も諸君の贊助を得て將に第三號を發せんす此の包まれたる明教即ち天眞の美玉を天下に表白發揮するの機失ふ可らずと演へ了

りて幸に滿場の賛成を得たり夫れより各胸襟を披き談論激に渉らす猷訓亂に及ばざるは眞に是れ本教の特性共に萬歳を唱へ散會せしは日既暗ならんせず、此日幹旋の勞を取られしは教長櫻井三竹氏伊東禎三氏池田彦兵衛氏等の諸氏なり、是れより志田益津の二郡始め遠近二國に歩を進む人心の最も收攬し難き本縣の如き之の盛會を見る余は本教の爲め歡喜措く能はざる所なり、氣候は非常に暖く作物等關東各地に比するに半月の差あり、委細は次號に譲る、

● 蓮門教

萬朝報連載數十日大に蓮門教の内事を發き、二六新聞次で攻撃を加ふ、或は高等地獄と呼べ

れ、或は淫祠と名付られ、或は戀悶狂と稱せらる、其醜、其汚、苟も宗教として有可らざるの次第なり、今や府下の各新聞、爭ふて其非を罵る、我輩未だ早計に、彼新聞記載の事實を盡く信ずる者に非ざるも、烟の起る先づ火あるの後に然るを知る、

● 天理教

天離教會も亦猖狂怪なり、妄りに大鼓をたいて、愚夫愚婦を瞞着し、無智昧を嚇感す

ると傳ふ、今や識者其荒誕無稽に驚き、其風紀紊亂するを歎ず咄々、

● 教主は女と馬引

既に妙法と唱ふるさえ、神道にはあるべからざる奇妙法なる、彼蓮門教の教主は、

島村みつといへる婦人にて、教職は大教正なりと謂ふ、又其一對なる、天理教々祖(先頃死す)も大和國の婦人